



教育目標 信念とともに 山の如く 優しさとともに 海の如く 勇気をもって たくましく生きる
重点目標 求めて学ぶ 共に生きる 力を尽くす 生徒の育成

故郷の誇り 自然を守る

～ 寒川海岸クリーン作戦 & 笹川流れ海の子プロジェクト ～

6月17日(水)より26日(金)までの期間、まちづくり協議会から御協力をいただき、「海洋ごみについて考えよう 笹川流れ海の子プロジェクト」の写真展示会を行いました。せっかくの機会でしたので、5月29日(金)に行った、寒川海岸のクリーン作戦の様子の写真と、当日の活動を振り返った感想等を合わせて生徒玄関前に掲示しました。



クリーン作戦後に以下のような質問をして、活動を振り返り、それぞれの思いや考えを聞きました。全校生徒一人一人がたくさんの意見、感想を書いていて感心しました。全てを紹介できないのが残念ですが、以下、主な回答としてまとめました。

子どもたちの貴重な感想、意見です。ぜひ御一読いただけると幸いです。

質問1 「どんなゴミがありましたか? (いつどこからやってきたと思いますか?)」

「流木(大木や木の枝)」「自然物(海藻など)」が多数で、強風の時に漂着したと主に答えていました。また、「プラスチック・人工物」も多く、「ペットボトル(中には海外製のもの)」「ペットボトルのキャップ、缶、瓶、人形、タイヤ、かご、スプレー缶」など、海から流れてきたもの(海外や県外から漂着したもの)という回答がありました。

質問2 「笹川流れの海岸にあるゴミの片付けは、いつも誰がやっていると思いますか?」

「地域の方々」「近くに住んでいる人たち」「笹川流れのグループ」「業者の人たち」「漁師の方々」「市(行政)」などの回答が挙がりました。「誰もやっていないから溜まるのでは…」という意見もありました。

質問3「片付けにはどれくらいの費用がかかりますか？」

金額の幅は広く、「3万円～5万円」「10万円」「100万円」「200万円（重機手配なども含むため）」「1億円」（!）など、予想もそれぞれでした。ゴミ袋代やガソリン代、道具代、人件費を含めると高額な費用がかかることを予想していました。また「ボランティアだから0円」という意見もありました。

質問4「笹川流れのゴミの片付けは必要だと思いますか？」

全員が「必要」「必要だと思う」「はい」と回答していました。

質問5「そう思う（質問4の回答のように思う）のはなぜですか？」

「笹川流れは山北の立派な観光地であり、県外や外国からもたくさんの観光客が来るから。」「写真を見て綺麗だと思って来てくれた観光客にがっかりしてほしくない。」「気持ちよく利用してほしい。」など、観光地としての価値を守るためという理由の他、「放置すると将来砂浜がゴミで埋め尽くされてしまうかもしれないから。」「綺麗な景色を守るため。」といった自然や景観を保護するためという理由がありました。その他「訪れる人が怪我をしないようにするため。」というものもありました。

質問6「今後、どのようにしたらよいと思いますか？あなたが考える対策や提案を教えてください。」

「ポスターや貼り紙を作って、ポイ捨て防止や忘れ物に気をつけてもらうよう呼びかける。」「自分のゴミは必ず自分で持って帰る」という決まりを徹底するなど、啓発活動やルール作りを行うという意見の他、「今回のようなクリーン作戦を定期的に行い、海岸を綺麗に保つ。」「1回だけではすぐにまた汚くなってしまうので、年に2回に増やすなどして地域の方々の負担を減らす。」といった、清掃活動の継続・強化を呼びかける意見、さらに「まずは自分自身が海へ行ったときなどにゴミを出さないよう気をつけ、見つけたら少しでも拾う優しい心を持つ。」といった、個人の意識を改革するという意見もありました。



御承知の通り、「笹川流れ」は「日本百景」の一つに選ばれ、「国指定名勝天然記念物」にもなっている山北の誇りです。生徒が自分たちの手で故郷の自然を守っていこうとする行動と姿勢にあらためて感心しました。同時に、山北に受け継がれる「心」も継承していかなければならないことを強く感じました。

修学旅行発表会【3年生】

6月19日（金）午後、総合的な学習の時間に、3学年の修学旅行発表会を行いました。

関東方面への修学旅行で学んだことをiPadを使ってまとめ、1、2年生に発表を行いました。内容は、山北を中心とする村上市の特産品を新浦安駅で販売した商人体験や、学年全員で見学した場所や班ごとに訪問した場所での学びでした。

関東と山北とを比較し、再発見、再認識した地元の良さや未来に生かせる提案などを伝えていました。内容はもちろん、発表の技術も後輩たちは学んでいました。



海洋ごみアート制作【2年生】

6月25日（木）午後、2学年PTA行事を実施しました。巻頭で紹介した寒川海岸クリーン作戦で回収した「海洋ごみ」を使って、アート作品の制作に取り組みました。流木で骨組みを作り、海岸で拾ったプラスチックごみや貝殻などを組み合わせながら、協力して作り上げました。海洋ごみの現状について考えるとともに、

メッセージとして伝える工夫を学ぶ、貴重な機会になりました。御参加いただきました保護者の皆様、御協力ありがとうございました。



つなぐウォーク ～ 震災を忘れない ～【1年生】

6月18日（木）午後、NPO法人悠遊さんぽくスポーツクラブ主催の「つなぐウォーク ～ 震災を忘れない ～」に1年生が参加しました。2019年の同日に起きた山形県沖地震で被災した記憶を、次世代につないでいきたいという目的で開催されている行事です。最初に、体育館周辺の周回コースを30分弱ウォーキングし、その後、体育

館に移動して、防災用段ボールベッドの制作などを体験しました。山北地域の地理的な特徴を知り、「パック・クッキング」と合わせて、今後の生活に生かしていけるよう学習を進めていきたいと思います。



全校ラン

部活動の地域展開もあり、子どもたちの運動量が少なくなっています。そんな中、体力の向上、特に持久力を向上させるにはどうしたらよいか、という課題も生まれています。

山北中学校では数年前から、15 分間の持久走を「全校ラン」と称して取り組んでいます。「疲れるからきっと嫌だろうな…」と子どもたちの気持ちを想像することもできますが、しかし、大人になって働くようになり、体力が続かず「疲れて動けない…」なんてことになる方がよほどかわいそうに思います。

「山北の子どもたちは『我慢』ができる。」

体力の向上だけでなく、辛いことや苦手なことにも正面から向き合える。そんな忍耐力も身に付けてほしいと願っています。

週 1 回の取組でしかありませんが、山北中の生徒たちは、一人一人がそれぞれのペースで「全校ラン」に向き合い、15 分間を走り抜いています。



「頂点へ！限界突破」 山北中メディアルール二か条



6 月 15 日（月）の生徒朝会では、今年度の生徒会スローガン「頂点へ！限界突破」が示され、続いて「山北中メディアルール二か条」が発表されました。

5 月 21 日（木）の全校課題解決活動で、山北中のメディアコントロールの課題について生徒たち自身が話し合いを行いました。グループの話し合いで出た意見をもとに、生徒会本部のメンバーが中心となって発案し、全校生徒に発表を行いました。

- 一、毎日の自主学習の提出を含む学校の提出物の期限を守る。
二、保護者とメディア使用時間のルールを決めて守る。

「やりたいことを好きなだけやりたい！」という気持ちはわかりますが、一方で「やるべきことをきちんとやる」ことも大切です。

一人一人に与えられた時間はみな同じです。メディアに向き合う気持ちと使い方を、自分自身でコントロールする。そのルールを家族の力を借りながら守り切る。そういった決意と覚悟こそが、まさに生徒会スローガンの「頂点へ！限界突破」につながると思いました。

7 月 8 日（水）から 10 日（金）までの 3 日間で行われる保護者面談でも話題に取り上げたいと思います。御理解と御協力をよろしくお願いいたします。

